

TOHATSU

PARTNER

2007年5月1日発行 / 春号

VOL.72



Photo:各地のボートショー

CONTENTS

TRC- M-24Bを神奈川県下で相次ぎ導入.....P.2
ポータブルアイソレータ関西国際空港へ納入..... P.2
「VF53AS」待望の初納入..... P.3
旭川で「VF53AS」の超低温環境試験..... P.3
「損害保険号」東京消防庁へ寄贈..... P.3
ジャパンインターナショナルボートショー2007他.....P4~5

日本海マリンで合同展示会..... P.6
福岡市で九州マリンフェスタ開催..... P.6
販売店「おおぜき」が春の展示会..... P.6
トーハツ本社・東京工場で合同防災訓練..... P.7
消防庁が消防防災機器等の優れた開発者を表彰..... P.7
長野県中川村がポンプ付水槽車を導入..... 裏表紙

定置形防火設備の非常動力装置「TRC-IM-24B」

神奈川県下で相次ぎ採用



火災とともに発生する停電時でも、遠隔操作によりエンジンを自動的に起動させ送水を可能にするトーハツ非常動力装置「TRC-IM-24B」は、特定防火対象物への消火設備装置基準適合品として神社仏閣など様々な施設に採用されていますが、このほど神奈川県下で2ヶ所の重要文化財にTRC-IM-24B型が採用され設置されました。

この度設置されたのは、300年以上の歴史を持つ開家の萱葺き屋根造りの武家屋敷。ポンプ室から門と母屋に系統的に放水箇所を選択できるように選択制御盤が設置され、また放水銃はスイング式4基が装備されました。

一方、鎌倉市にある三大天満宮の一つとされる絵柄天神社に

は、近くにある鶴岡八幡宮から電話回線による遠隔操作でTRC-IM-24Bポンプを起動できるよう設置。これも2基の放水が行えます。また水利面では、ステンレス製組立て式水槽を採用。吸水管の途中に電動バルブを取り付け、起動信号を受信と同時に電動バルブが開閉。ポンプへ水が流入する設計です。火災から日本の文化財を守る、これもトーハツの大切な仕事の一つです。

(防災中央/志津川)



感染症患者搬送装置 「ポータブルアイソレータ」 関西国際空港に納入

近年、様々な感染症患者の国際的感染化が強まるなか、去る3月19日、大阪の空の玄関口・関西国際空港検疫所に、トーハツ(株)が販売するポータブルアイソレータ2台が納入されました。同空港は、平成6年9月に開港いらい着実に利用客を伸ばし、昨年は実に国際線航空旅客数1,113万人を突破。検疫所の重要性は増すばかりです。

このポータブルアイソレータの納品に伴い、この日同空港検疫所の職員10名余が参加して、

取り扱い上の注意点など詳しい説明が行われました。同国際空港の検疫所では、乗客・乗員の生命、安全確保のため、コレラや赤痢などの消化器系感染症だけでなく、エボラ出血熱やSARS、鳥インフルエンザなどウイルスの国内侵入を防ぐため日夜取り組んでおり、職員からは専門的かつ高度な質疑応答が交わされていました。

有事の際は、きっとこのポータ

ブルアイソレータが大いに活躍してくれると確信しています。今回の納入実績を皮切りに、全国の空港で装備されるよう拡販をいっそう強化して行きたいと思えます。

(防災関西/山口)



低排気ガス **低燃費** **低騒音**

4ストロークエンジン搭載の 「VF53AS」待望の初納入

地球環境問題の未来像へ迫る画期的な省エネ可搬消防ポンプとして、昨年、国内で初めてトーハツが開発したVF53ASポンプ1台が、このほど福井市消防局からの採用が決まり、去る2月17日、特約販売店の暁産業(株)を通して納入されました。

このポンプは、電子制御燃料噴射装置を採用した4ストロークエンジンを搭載し、低排気ガス、低燃費、低騒音、低振動等々、いたる所に従来の可搬ポンプのイメージを一新する優れたエコロジー性を備えています。

3月18日、福井市御油町西村自警団にVF53ASが納入され入魂式が行われました。数十年前から使用したポンプの購入で、今回は御油町西村自警団のとりまとめにより住民からの寄付金で購入することになったものです。地元の影響もよく、デザインがカッコよく、始動性も抜群によく、簡単にエンジンが始動でき、エンジン音も従来のものより静かであるとの好評を得ました。

入魂式では、神主にお払いをうけるVF53ASがとても愛嬌があり、厳かながらほのぼのとした式典でありました。

(防災中部)



「損害保険号」4台 今年は東京消防庁へ寄贈



毎年、「損害保険号」の寄贈で国内の防火・防災に貢献している社団法人日本損害保険協会から、今年は東京消防庁へトーハツ軽四輪駆動消防車デッキバンタイプ4台が寄贈され、その贈呈式が去る3月12日、同庁に関係者多数の方々が出席して行われました。

寄贈された軽四輪駆動消防車は、恒例により「損害保険号」と命名され、東京都内4箇所の消防団に配備されました。

(防災中央 / 志津川)

昨年末発表されたトーハツ史上初の4ストロークエンジンを搭載した環境に極めて優しい可搬消防ポンプ“VF53AS”の超低温環境下における優秀性を実証しようと、去る2月14日、(株)北海道モリタ旭川営業所の協力のもと、超低温環境試験が行われました。旭川市は気象庁の観測史上、最低気温で歴代ランキング1位の記録を持つ日本屈指の寒冷地です。

今冬は記録的な暖冬と言われていましたが、幸いにも試験当日はこの冬一番の冷え込みとなり、恰好の試験条件が整いました。試験時刻は早朝5時～6時。最低気温は今冬一番の-20度を記録するなかで、凍結防止処理のあと、一晚屋外に放置され完全に冷え切った“VF53AS”は、セル一発で見事に始動。EFIの実力を発揮しました。

「VF53AS」の超低温環境試験 厳寒の旭川市で敢行 “超低温環境下で優秀性を実証！”

しかも零下における完全燃焼の証である真っ白い水蒸気をマフラーから吐き出しながら、16mの超ロング吸管の使用にも関わらず息つきすることなく吸水。吐出口の凍結もなく、余裕の放水を確認できました。

また一般住宅に隣接した場所でありながら、早朝に気兼ねなくテストが行えたことで、同機の静粛性も実証。おかげで低温環境下における数々の貴重なデータを得ることができました。ご協力頂いた(株)北海道モリタの開社長をはじめ、同社旭川営業所の皆様には厚くお礼申し上げます。

(技術部 / 井元)



名称もステージも一新 パシフィコ横浜 「ジャパンインターナショナル」

第46回目を迎えた東京国際ポートショーは、今回から名称もステージも一新。国際マリン都市と呼ぶにふさわしい横浜の“みなとみらい”にあるパシフィコ横浜展示ホールに221社が集集、去る3月15日から4日間にわたり開催されました。2年後に迫った開港150周年記念への地域パワーを追い風に、ポートショーは新時代の幕開けです。

2007 ポートショー 各地で開催!



西日本最大のマリンの祭典 神戸国際ポートショー2007 夏へ始動

西日本におけるマリンレジャーの幕開けとも言うべき「神戸国際ポートショー2007」が、去る4月6日から3日間、神戸市の神戸国際展示場で開幕。今回は初の試みとして、室内展示会場とは別にポート試乗が可能なフローティング展示の西宮会場も併設。桜前線の北上と共に何かと落ち着かない日々を過ごしていたボートファンなどが、初日からドット会場へなだれ込む盛況ぶり。また神戸港開港140周年を記念して行われた「神戸懐かしの写真展」など、様々なイベントの実施とあいまって来場者を喜ばせました。



トーハツでは主力を室内展示場に絞り、フィッシングボートでは好調なTFシリーズの牽引艇とも言えるTF-235 SCと、17フィート・レジャー和船のNEWモデルTFW-17Rの2艇を展示。一方エンジン関係では、4サイクルの小型船外機を中心に、クリーンで低燃費、トーハツの卓越した環境対応技術をアピールし、成果を上げました。

この度の神戸国際ポートショー2007は、好天と春休みとあいまって入場者は延べ13,500人を突破。大成功裡に閉幕しました。

(マリン関西 / 福松)



07名古屋ポートショー

TF-235 SCにMD115A エンジン搭載で人気沸騰!

例年2月に行われていた東京国際ポートショーが、今年度から名称や開催地、開催時期など変更になった流れを受けて、ご当地「名古屋ポートショー」も、例年より約半月遅れて、去る3月31日から2日間、ポートメッセ名古屋で開催しました。



拡販体勢がすっかり整ったトーハツ・マリン部門にあって、いまやベストセラー商品の一角を狙うTF-235 SC艇に、待望已久的MD115Aエンジンを搭載したことで人気更に沸騰。また、デザイン、お手ごろサイズ、利便性と低価格性など、様々なメリットにより人気急上昇中の和船TFW-17Rの展示もユーザーの集客にプラスして、トーハツブースは大賑わい。係員への質問が同和船の運搬用トレーナーの発売時期にまでおよぶなど、注目度の高さをうかがわせました。今回のトーハツブースには、いま消防業界から熱い視線を浴びている4ストロークエンジン搭載の「VF53AS」ポンプも展示。当社の技術力をアピールしました。

今回の来場者は延べ約14,000人。繁忙をきわめた2日間、最後まで応援して頂いた(有)鳥新様、常滑マリーナ(株)様、(有)おおげき様には厚くお礼申し上げます。

(マリン中部 / 宮川)

「ヨナルボートショー2007イン横浜」開幕!!

今回のボートショー会場は、みなとみらい地区のクイーンズスクエアなど大規模なアウトレットショッピング街の延長ライン上にあり、展示会場全体が横浜独特の華やいだ雰囲気になるから不思議である。主催者側は集客力にも大きな期待をかけているようで、その集客力のお蔭かどうかは別として、展示会場中央に陣をはったトーハツブースには、会期中幅広い年齢層のユーザーが来場。例年にない盛況を極めました。今年のトーハツはエンジン部門の充実が顕著で、とりわけ環境対応型クリーンエンジンは、TLDI直噴シリーズから4サイクルシリーズ、なかでも世界初の電子

制御燃料噴射式の4スト25 / 30にいたるまで、その先進性でトップクラスのラインアップを堅持。また免許不要小型ボート対応の船外機MFS2Aも、幅広い客層から熱い視線を集めていました。

一方ボート部門では、TLDI直噴115馬力エンジン2基掛けのフィッシングボートTF - 26SCWをはじめ、TFシリーズの人気モデルTF - 235 SC、マーベラス21、今回満を持して投入された17フィートのレジャー和船TFW - 17など4艇を展示。特にボートの細部まで入念にチェックして頂いたユーザーからは、特大な好評価を頂くと共に多くのご成約も頂きました。

さて今回のトーハツブースに、変わった展示物がお目見え。道行く人々がしばし足を止め、食い入るように見入っていたのが可搬消防ポンプ「VF53AS」。それもそのはず、日本でトーハツが初めて開発した環境に極めて優しい14ストロークエンジンに加え、電子制御燃料噴射装置を搭載した画期的なポンプだったのです。船外機、フィッシングボート、そして可搬消防ポンプ。この3本柱がトーハツの生命であり、これからも多くのユーザーにご愛顧願いたいものです。

(マリン営業部)



全国のトップを切って開幕
新潟ボートショー

第17回目を迎えた新潟ボートショーは、全国07年度ボートショーのトップを切って去る2月24日・25日の両日、新潟市の産業振興センターで開幕。雪国の厳しい寒さもなんのその。オープンとともにレジャー志向から漁業関係者まで幅広い地元ユーザーが大挙して入場。会場は早くも初日から熱気でむせ返るような雰囲気でした。

トーハツではこの春、満を持して投入した17フィート・レジャー和船のNEWモデル「TFW - 17R」をメインに、拡張作戦を展開。手ごろな大きさ、使い勝手などが受けて忽ち人の輪ができる好調ぶり。商談もたくさん頂きました。

一方、この日実施した特売用品コーナーでは、タネムラマリーナの知名度と豊富な品揃いが受けて飛ぶような売れ行きにスタッフもびっくり。また同ボートショーへの来場者の多さにも2度びっくり。幸先の良い2007年春の幕開けでした。ご尽力頂いたマリン商事様には厚くお礼申し上げます。(マリン関東/榎本)



ユーザーのステップアップに手応え
第22回 広島ボートショー
マリングランフェスタ2007&「海の駅」開幕

風光明媚な多島美・広島で、今年22回目を迎えた「マリングランフェスタ2007 広島ボートショー」が、去る4月21日から2日間にわたって開幕。前日までの怪しい曇り行きもスキッと晴れ、開幕初日から大勢のボートファンやファミリーで賑わいました。

各メーカーの人気艇が並ぶフローティングコーナーには、中国運輸局により未来の交通艇として試験的に開発された「赤とんぼ号」が展示され、花を添えました。同コーナーではマリンセミナーに参加する人、また試乗艇コーナーでは乗船待ちがでるほどの盛況ぶり。

期間中トーハツでは、TLDI直噴MD115A搭載のTF - 235 SCを試乗艇に投入。ユーザーも心得たもので、MD115Aが体感できるとあって真っ先にTF - 235 SCを指名。瀬戸内の沖を目指して滑走していました。

試乗希望のユーザーに交じってTF - 220艇のオーナーや、TF - 21ST艇のオーナーご夫妻なども来場され、今回は共にTF - 235 SC艇へのステップアップがお目当てとか。またTSC - 225のオーナーになられて既に7年目となるユーザーは、試乗を通してMD115Aの加速感やフィーリングを何度も何度も確認。そのパフォーマンスに手応えを感じたようです。

さてこの会期中、とりわけ多かったのがトーハツでステップアップを目指すユーザーとTLDI直噴MD115Aに惚れ込んでくれたユーザーです。スタッフ一同大いに力づけられた次第です。(マリン関西/福松)



日本海マリン(富山県)が合同展示会



寒ブリ漁獲量日本一の富山県高岡市にあるポート販売店・日本海マリン(株)の呼びかけによるメーカー合同のポート展示会が、去る3月10日・11日、同社の特設会場で開催されました。豪雪地帯におけるこの時期の開催は珍しく、春を待ちきれないユーザーで終日賑わいました。

この展示会で、トーハツ担当者を一番喜ばせたのがTF-235 SC艇の高い人気です。同艇とMD115A船外機のセット販売情報を聞きつけて会場に駆けつけたユーザーや、また中には既に同艇のオーナーで、エンジン買い替え希望のユーザーもいて、MD115A EPTOULのご成約もいただきました。今後の好調な拡販を予感させるに十分な意義ある2日間でした。日本海マリン(株)様には厚くお礼申し上げます。

(マリン中部/宮川)

福岡西方沖地震から2年

福岡市で「九州マリンフェスタ」開催

あの悪夢のような福岡西方沖地震からまる2年。最大の被災地“玄海島”の島民にもようやく帰島の許可が下り、福岡県民に復活への明るい兆しが伺えます。その復活への第一歩とも言うべき海の祭典「九州マリンフェスタ」が、去る3月24日・25日、福岡市内で開催されました。



トーハツでは、満を持して発売した17フィートのNEWレジャー用和船TFW-17を目玉に据え、更に上級モデルのカラーハル仕様の一押し機種“MFS30B”をセットしたモデルを展示し、手ごろな価格帯ながら最新技術に裏打ちされたハイ・クオリティをアピール。訪れたフィッシングファンを魅了しました。

多くの家族連れで賑わったこの度の「九州マリンフェスタ」は、国内マリン業界の長い冬の終わりを予感させる2日間でした。

(マリン九州/藤川)



三重県のポート販売店「おおぜき」で春の展示会

名古屋ポートショーが好調裡に閉幕し、気分はもうすっかり春のマリンシーズン入り。

近郊の販売店なども今やおそしと展示会を企画するなか、この地域でとりわけ販売力を発揮している三重県桑名市の(有)おおぜきが、去る4月7日・8日の両日、先陣を切ってポート展示会を開催。好成績をおさめました。

トーハツの主な展示艇は、いま人気絶頂のTF-235 SC(MD115A搭載)やTFW-17R(和船)がメイン。これらをお目当てに、名古屋、滋賀など遠方からの来場者もあり、販売店主ご夫妻は対応に大わらわ。そのかいあってTF-235

SC(MD115A搭載)や船外機数台のご成約を頂くなど、春から幸先の良いスタートを迎えました。同販売店の皆様、2日間お疲れ様でした。

(マリン中部/宮川)





春の火災シーズンを前に、東京消防庁志村消防署の坂上出張所と、志村消防団、トーハツ(株)自衛消防隊による合同防災訓練が、去る3月2日、総勢50余名の参加を得てトーハツ本社・東京工場で実施されました。

訓練は、トーハツ東京工場の2階にある食堂から出火したとの想定で行われ、志村消防署のポンプ車2台、指揮車・救急車など各1台が出動。同消防署の指導のもと、とても合同訓練とは思えない呼吸の合った消火・救急活動を展開。最後は全隊員による一斉放水も行われ、今後の防災意識の高揚に繋がる素晴らしい訓練となりました。こうした実践さながらの緊

迫した雰囲気での経験と蓄積が、有事の際に被害を最小限に抑えられる大切な要素になると改めて再認識した次第です。

防災訓練の実施にあたり、ご協力いただいた東京消防庁志村消防署の坂上出張所署員の皆様、そして日頃お世話になっている地元の志村消防団の方々には、誌面をかりて厚くお礼申し上げます。

(総務部 / 大坪)



トーハツ本社 東京工場で 合同防災訓練

消防庁主催の消防防災機器の開発等及び同科学論文公募で (株)大昭商事 / ホーチキ(株)の2社が受賞

消防庁では、全国の消防機関と消防機器メーカー(一般の部)などを対象に、毎年、消防防災機器の優れた開発者や消防防災科学などに関する優れた論文を著した方々を公募。優秀作品を消防庁長官が表彰する制度を設けていますが、この程平成18年度の優秀作品が決定。去る3月8日、霞ヶ関の中央合同庁舎で消防庁長官表彰の表彰式が行われました。

厳しい審査を経てみごと優秀賞に輝いたのは、一般の部では株式会社大昭商事(住宅用スプリンクラー)、ホーチキ株式会社(屋外用炎検出器)の

2社で、開発への努力と功績を称え消防庁長官から表彰状が手渡されました。

受賞した(株)大昭商事は、清水社長の陣頭指揮のもと真摯な努力と情熱が同作品に結実。この度の受賞に繋がったものと思われまます。

(技術部 / 古澤)



長野県の中川村

全自動ポンプ付 水槽車を導入

中川村では所有する小型動力ポンプ全てトーハツのもので、全自動ポンプ付積載車も導入されています。今回、積載車の更新に当たり、キャンペーン車のデモを行いました。数年前、真夜中の大規模火災に出動した際、暗所での消火活動の困難、不便さを痛感されていました。当初は、電動昇降照明装置(1kwハロゲン)、水槽の水が尽きた後も引き続き消火活動をスムーズに移行できる軽量FRP水槽や自動中継機能付きポンプに興味を示されました。打ち合わせを重ねる中で、中川村の担当者様より650ℓの水をより有効に利用できるようにと、背負い式水囊と注水を行うためのウォーターチャージャーを積載することをご提案頂きました。

この車輛を導入するにあたって、車庫が2.6m未満であることから車輪高の調整を必要としましたが、照明のヘッド部分を天板下に格納できるよう苦心して頂きました。また長野県南信とはいえ、冬季間の不凍処置も必要です。水槽には電熱線を設け、これについても万全です。

こうして無事車輛を納めることができました。中川村担当者様、トーハツ防災営業部、艀装工場他ご尽力賜りました皆様に感謝申し上げます。

車輛が消防団に引き渡されて間もない3月3日、水利のない箇所で見野火災が発生。水利を探すことなく現場へ急行し、水槽から背負い式水囊へ、まもなく鎮火されました。幸い小規模に終わり、残り火処理も水槽の水で済み、水槽車の利便性を肌で感じられたそうです。

(寄稿:(株)久保田商会/井坪)



発行

〒174-0051 東京都板橋区小豆沢3-5-4
TEL(03)3966-3116 / FAX(03)3966-2951
トーハツ株式会社
トーハツパートナー編集局
編集兼発行責任者 若林 弘/小山 将